

元培科技大学(台湾)国際交流サマースクール 報告書

2014 Yuanpei University Summer School for Chinese Learning and Healthcare
Industry Site Visit. Special program for Kyoto College of Medical Science

医療科学部 放射線技術学科 3回生 市川 萌希

迷ったらやってみる.



台湾・元培科技大学にお邪魔し、文化や言語・医療現場の見学を通して交流を深める国際交流サマースクール。日本という限られた状況から脱し、自分自身の視野をひろげる事を私自身のテーマとして今回の参加を希望しました。台湾のサマースクールは旅行ではなく、あくまでも私たち自身で計画・行動する必要があります。海外へは旅行でしか訪れたことがない私にとって未知の世界です。

海外渡航の良さは、その土地の雰囲気・匂い・人の活気を肌で感じられることです。台湾は短時間渡航が可能であり、日本からも多くの方が訪れる人気のある国です。多くの方が中心地・台北を訪れますが、今回は台北から少し離れた新竹市が目的地です。観光客が少ないため、現地の様子・人々の温かさが感じられました。

台湾で6日間過ごして感じたのは台湾の方々の優しさです。私たちにつきっきりで様々なことを教えてくれた元培科技大学の4人のホストさんには大変感謝しています。大学内では共に講義を受け、学外では私たちを先導し、行動を共にしてくれました。なかなか英語が通じにくかったため、彼らの存在なしでは苦労したと思います。そして、台湾の学生さんの社交的な姿に驚きました。日本の学生はやはり日本人ばかりで集まりたがります。対して台湾の学生さんは、すぐ「May I?」と話かけ、交流を深めようとしてくれます。学生さんだけでなく、大学の関係者の方も日本語での挨拶など大変温かい歓迎を示してくださいました。ホテルのそばにあるコンビニの店員さんと少し話をしましたが、なんとか懸命に伝えようという姿と笑顔が印象的でした。言葉の違い、という壁は厚いようでいて案外越えられるものなのかもしれません。



台湾での日々はあっという間でした。朝から講義や病院見学など予定がビッチリつまっており、基本9時頃ホテルへと帰ってきます。ホテルに帰ってからはフリータイムですが「今日楽しかったねえ…」などゆったり夜の時間を過ごす余裕はありません。出し物の演目が他校とかぶってしまったため、白紙の状態から演目を考え直す必要があったからです。しかも残された時間は3日。加えて、日本のお正月について紹介するスライド・原稿も用意する必要がありました。ホテルのロビ



一で会議を始めた当初、全員呆然とし、どんよりした雰囲気でしたらだらと会議が進んでいました。先生の「やるか迷ったらやってみる。やると決めたら全力でやれ」の一言で全員「やろう」という気持ちに切り替わりました。大人数である事を活かし、ダンスの演出・構成・振付指導する2人のパートリーダー、ダンスの間を埋める数人のパフォーマー、そして日本紹介担当に別れ、夜の時間を利用して準備を進めていきました。全員で一つの作品を作るので誰か一人でも力を抜けば全体がガタガタになってしまう。全員の努力が実り、日本紹介も送別会の出し物も、大成功で、見て

いる人にも楽しんでもらえました。

充実した毎日の中で、やはり最も興味をもったのは病院見学です。台湾の病院システムは、基本、日本の病院システムと同じです。見学途中、撮影機器やHISのパソコンの上にスナック菓子を発見しました。不思議に思っていると放射線技師の方が「ちゃんと機器が作動するようにお供え」と笑って教えてくださいました。台湾と日本の文化の違いかもしれません。また放射線技師一人一人に番号が割り振られていました。写真に番号を表示することで検像・画像評価の際に、この写真は誰が撮影したものか、わかるようにしているそうです。台湾内でも大きな病院・台安医院では職員食堂や病院食は野菜のみの献立で作られており、なんと病院内にジムやテレビのスタジオまで併設されていました。外国人の患者さんに対応するために、英語や日本語が話せる医用従事者が中心の部門も存在しました。しかし、受付や待合から撮影操作室や処置室が覗けてしまい、他の患者さんからの視線を考慮した日本の病院構造と比較すると、かなり大胆な病院内だな、という印象を持ちました。日本の病院システムを学ぶことももちろん重要です。しかし、普段の海外旅行で海外の病院見学をさせて頂ける機会は全くないと言って良いでしょう。比較しながら学べる事は理解を深める事にもつながります。本当に貴重な経験をさせて頂きました。



台湾サマースクールに参加したことで自分の殻が一つ破られました。破れた殻がどんな殻だったのか、言葉にはできません。海外へは何度も訪れていますが、こんな感覚を抱いたのは初めてです。新しい事にチャレンジすることは勇気がいります。チャレンジする・しないを含め、何が自分にとって正しい判断なのか、正しい選択をする事は決して簡単なことではありません。これから先、何度も判断をしなければならない状況に直面するでしょう。その状況下で、おそらく私は今回の経験を思い出すと思います。

迷ったら、やってみよう。やると決めたら全力であたってみよう。何事も経験する事は自分自身の宝物になるのだから。そう考えられるようになりました。



最後になりました。準備期間を含め、私たちの事を気にかけてくださった本学の先生方、事務員の方々、アドバイスをくれた昨年度サマースクールに参加した学生さん、準備期間を含め、現地で支え続けてくださった石垣先生・富高先生、皆様のご協力に大変感謝しております。ありがとうございました。

